　2021年７月

会員各位

公益社団法人　愛媛県作業療法士会　学術部

**令和3年度　オープンセミナー　精神疾患**

謹啓　盛夏の候　貴殿におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

　この度、当県士会学術部にて令和3年度オープンセミナーを企画致しました。今回は「整形疾患」「地域・在宅」「小児発達」「精神疾患」「中枢疾患」の5テーマを、年間を通して実施計画をしており、第4回目は「精神疾患」を下記日程にて開催します。この研修会を通して日々の臨床に役立てていただければと思います。ご参加よろしくお願いします。

記

１　日時：2021年9月12日（日）10時00分〜12時00分（開始30分前より入室）

２　場所：teamsを利用したオンラインセミナー

３　参加資格：愛媛県作業療法士会会員（参加費無料）

４　テーマ・講師：

**「** 統合失調症患者の歩行の特徴、および運動療法(Basic Body Awareness Therapy)の試み**」**

土佐リハビリテーションカレッジ　作業療法学科　萩原賢二OTR

５　講義要約：

精神疾患を有する対象者には、過剰な筋緊張、痛み、姿勢の悪化など身体症状をしばしば呈し、身体接触の欠如やボディーイメージの歪みも重なり日常生活での不器用な動きや機能低下につながっている。これらの諸症状は慢性化し、作業効率や生活の質にマイナス結果をもたらすといわれている。また。統合失調症患者の自己意識の特徴として、浅井らは「結果の予測＝運動イメージ」が正常に行えず,異常な自己感が生起されると述べている。自己感とは、運動主体感(以下Agency)、身体所有感(Ownership)、時間軸で構成されたアイデンティティ(以下Narrative self)であり、運動学習を行うために重要となる。つまり、統合失調症患者の異常な自己感は、様々な動作中に生じる姿勢やバランス変化に対して、適宜修正(補正)が行えないため、ぎこちなく拙劣な運動表出になっていると思われる。精神疾患者に対する運動療法として、北欧諸国ではBasic Body Awareness Therapy(以下BBAT)が盛んに実践されている。BBATとは動きの質(Movement Quality)を中核概念として、身体への気づきや機能的な動き(Functional Movement)を引き出すことに焦点を当てたアプローチである。そこで、今回の研修では、BBATの導入の様子と自己身体への気づきの重要性について、統合失調症患者の歩行を中心に、足底感覚や自己感とのつながりから確認していく。

６　申し込み締め切り：**2021年9月5日（月）**

７　参加申込方法：申し込みフォームhttps://forms.gle/PGRb1wXX5aVfiztj8

またはQRコードからお申し込みください。

※頂いたメールアドレスに当日の資料や連絡事項等送信致します。

**上記のフォームが使用できない場合や　9月8日（水）までに連絡がこない場合は　sogabepanda@gmail.comにお願いします。**

（docomo、ezweb、softbank等の携帯電話のアドレスでの申し込みはできませんのでご注意下さい。）

８　問い合わせ先：愛媛県作業療法士会 学術部 曽我部龍一　sogabepanda@gmail.com